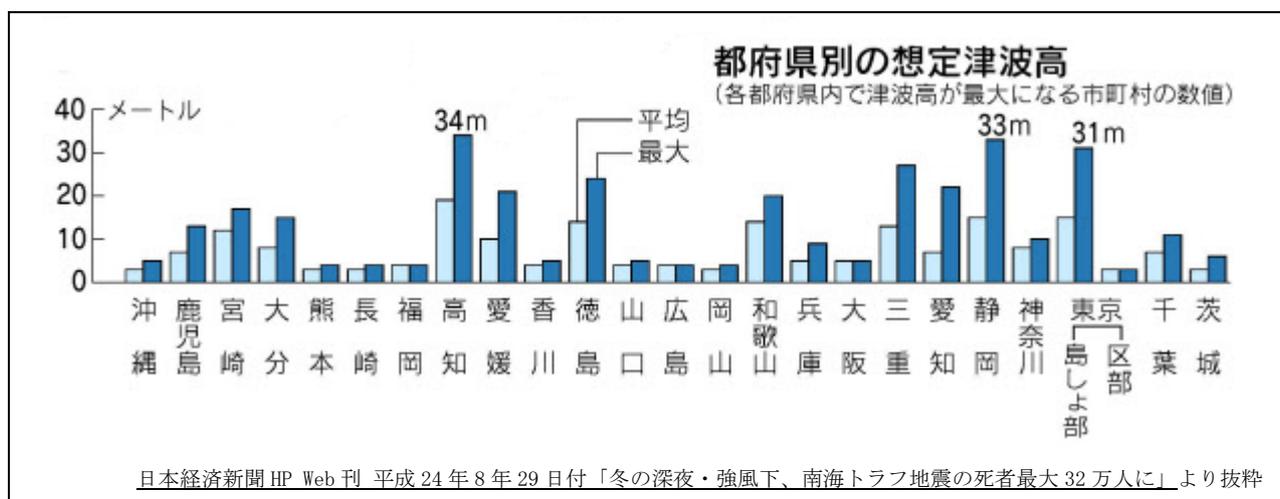


## 地震・津波に対する備えに「ぎょさい」

～「南海トラフ巨大地震」の被害想定に対して～

平成 24 年 8 月 29 日、東海・東南海・南海地震の震源域が連なる「南海トラフ巨大地震」について、中央防災会議の作業部会と内閣府の検討会が死傷者や浸水域などの被害を想定し公表しました。

最も大きい被害の想定は、「マグニチュード 9.1 の最大級の地震が冬の深夜・強風下で発生し、震度 7 の強い揺れと太平洋岸の広い範囲で最大高さ 34 メートルの津波に襲われ、東海地方に被害が多い。」という場合で、「死者 32 万 3 千人、そのうち津波によるものが 23 万人と全体の 71% を占め、建物倒壊が 25% の 8 万 2 千人、火災は 1 万人に及び、津波などで堤防・水門が機能不全になると、さらに 2 万 3 千人増える可能性がある。」とのことです。しかし、同時に「こうした最悪クラスの地震が起きる可能性は低く、適切な避難行動や対策をとれば、かなりの被害を減らせる。」と冷静に受け止めるよう強調しています。



参考 内閣府 南海トラフの巨大地震に関する津波高、浸水域、被害想定公表について ([http://www.bousai.go.jp/nankaitrough\\_info.html](http://www.bousai.go.jp/nankaitrough_info.html))

また、その 2 日後の 8 月 31 日夜にはフィリピン沖でマグニチュード 7.6 の巨大地震が発生し、午後 10 時 7 分、東北から本州、四国、九州の太平洋沿岸と沖縄地方の広い範囲に津波注意報が発令されました。いくつかの自治体では避難勧告が出され、防災無線で注意を呼び掛けたり、水門を閉鎖したりするなど各地で迅速な対応が行われました。幸いにも、この注意報は翌 9 月 1 日午前 0 時 10 分に解除され、大きな被害はありませんでした。

こうした津波への警戒が広がる中、改めて注目したいのが、被害等を受けてしまった際に速やかに漁業へ復帰するための備えとして機能する「ぎょさい」です。一昨年、三陸沿岸を襲ったチリ地震津波では 8.7 億円、昨年の東日本大震災による津波では 168 億円の共済金をお支払いし、被災された方々の速やかな漁業への復帰に向けて役立てて頂けたと思っております。

今後、巨大地震が想定されている中、いつ被害を受けるかわからない不安な状況の中でこそ、日頃から「ぎょさい」をセーフティーネットとして十分に活用して頂くことが重要です。

未加入地区の解消を目指して、なお一層加入促進を進めてまいりますので、関係各位の更なるご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。